

古文における課題学習の実践から

——蜻蛉日記の場合——

鶴野馨

○はじめに

学習指導要領の古典乙Ⅰ及び古典乙Ⅱの目標には「古典としての古文を読解し鑑賞する能力を養い、思考力・批判力を伸ばし、心情を豊かにするとともに、読解を通して、作品とその時代や文化との関係などがわかるようにする」とあります。僕はそれを具体化するために、一年生で「正確な読み」を、二年生で「深い読み」を、そして三年生で「考える読み」をねらってみました。

そのために一年生の前半に文法をもちこみ二年生から課題学習を試みてきました。

一年生の前半で体系文法をやることについてはいろいろな批判を耳にしますが、その中で一番大きな声は、文法学習におしつぶされてしまつて、古文の世界への興味を失ってしまう生徒が出てくるということだと思います。僕はそれをできるだけ避けるために、古文読解のために必要な文法を、常に古文読解に結びつけて記憶させるという道をとりました。(ごく常識的なことですが)。機械的な置きかえでも正確な読みができるようになる、それが夢なんです。助動詞の活用表も口語訳をあわせて記憶させました。例文読解のときには折

にふれてストーリーを語り鑑賞に手をのばして古文の世界への手がかりを与えることにつとめました。

この文法学習の過程でコボレを出さないためにドリル・テスト・補習と手を尽しました。その上で古文を正確に読みとるという仕事をさせるのですが、とにかく自分の力だけで何とか口語訳ができるということが、生徒達に大きな満足感を与え、さらには自発的な学習をすすめてゆく原動力になっているのだと思います。

そうした基盤に立つて二年生からの課題学習を行なうのですが、「現代国語」での課題学習については積極的な発言をする人の中にも「古典」での課題学習を否定する声があります。しかし「古典」、なかでも「古文」の学習が単なる口語訳をもつて能事足れりとするものでない以上、「現代国語」で必要な課題学習は「古文」でも必要だということになると思うのです。つまり、正確な読みができていけるのなら、その後の読解作業は「現代国語」の場合と変わりはないはずだし、「時間」というハンディキャップを乗り越えて「深い読み」をさせるためには「現代国語」の学習以上の困難性をもっていけるからです。二年生の課題学習については昨年度の山本義美氏の発

表に添付した「古典学習における課題例」をリプリントさせていただきましたので、あわせて御批判を頂きたいと思ひます。

さて三年生の「考える読み」ですが、教科書にとられてゐるコマ切れではなかなか思うような学習ができないという不満が常にふっきれないのです。基本的には時間が足りない、したがつて教科書の内容がうすっぱらなものになる、それが我慢できないからプリントで補充する、ますます時間が足りなくなる、というのが現実だと思ひます。そこで、一学期に、中古文学を支えている「古今和歌集」の学習を中心に据えて、二学期に、「蜻蛉日記」をじっくり読むという方法を試みました。勿論、「蜻蛉日記」でなくても、たとえば、「源氏物語」の「帚木・空蟬」を使って、「品定め」と「空蟬」の女性像を考えさせる、でもいゝと思ひます。まとまった学習ができて、歯ごたえもあつて、生徒の食いついてくる面白さもある、そんな作品として「蜻蛉日記」をえらびました。上巻のほんの一部を読ませただけですが、読後に書かせた「兼家、または作者に宛てた手紙」は、僕を大いに力づけてくれました。

兼家に宛てたもの場合、批判的なものから好意的なものへと並べていったところ、それがペーパーテストの成績順になっていることに気づいてびっくりしたんですが、考えてみればそれも自然だということなんでしょうか、読みが深まることによつて兼家への理解も深まり、そこから兼家への共感も生れてくるということだと思ひんです。ただし、作者に宛てたもの場合には、それがあてはまりませんでした。男子から総スカンを食つたということも意外でしたが、案外その秘密は東大英文科首席卒業の才媛を煙つたがる心理に近いんじゃないかとも思ひ、自分の生涯の伴侶として眺めるほど、

作者を身近かにひきつけて読みとつた上での批判なら、これまた結構なことだと思ひんです。女子の場合は成積の上位者に冷たい批判が見られましたが、そのなかには、作者の中に見出した自分自身の嫌悪感というものが多かったと思ひます。

が総じて言えることは、しっかりした読みの上に立つて、問題を自分自身にひきつけて考へていくことで、これこそが課題学習のねらいであり、その成果であると言ひたいのです。村岡由岐子、大石逸子、蘆中留美君らの手紙に見られるような「おのろけ説」は全くユニークなものだと思ひますし、多くの生徒達が口にしてゐる「愛の本質」や「人間としての生き方」の問題なども、レクチュアからは、なかなか生れてはこないものではないかと思ひます。

(一) 「蜻蛉日記」の学習の目標

「蜻蛉日記」は誠実で強烈な自我のもちぬしの半生の記録です。この作品の格調の高き密度の濃き嘆きの深さはげしさを通して、男性を、女性を、愛をそして人生というものを考えさせてみようと思ひました。

(二) 対象

兵庫県西宮市立西宮東高等学校の第三学年、「文科系大学進学希望の学級の四クラス」と「就職希望の学級の二クラス」です。

(三) 時間

第二学期、九月から十二月に至る三十六時間をあてました。

(四) 教材

「蜻蛉日記」上巻のうち、①序文 ②父の旅立ち ③町の小路の女 ④母の死 ⑤兼家の病氣 ⑥葵のまつり ⑦ゆするつきの水草

⑧初瀬詣で ⑨駁文 (省略した部分については学習課題のプリントに補説しました)

(一)「蜻蛉日記」学習課題抄

○序文

かくありし時すぎて、世の中に、いともはかなく、ともかくにもつかで、世にふる人ありけり。かたちとも人にも似ず、ころだましいもあるにもあらで、かうものの要にもあらであるも、ことわりと、おもひつただふしおきあかしくらすまに、世の中におほかる古物語のはしなどを見れば、世におほかるそらごとだにあり、人にもあらぬ身の上まで日記して、めづらしきさまにもありなむ、天下の人の、品たかきやと、問はむためしにもせよかし、とおぼゆるも、すぎにし年月ごろのこともおぼつかかりければ、さてもありぬべきことなむ、おほかりける。

1 「かく」は(A)先行文をうける場合、(B)次に掲げる歌や文を指す場合、(C)先行文がなく叙述者があるイメージを頭に持っていて、それを示さなくても読者または聞き手に察しがつくと予想している場合、に使われる。こゝはそのいずれか。又、この「かく」はどこへかかるのか。

2 「ありし」の「し」に注目して、「かく」の内容を説明せよ。
3 「かくありし時すぎて」の「すぎて」に注目して「かくありし時」と、現在の作者の局面との違いを説明せよ。

4 「世の中に」はどこへかかるのか。

5 「ものほかなくて」は副詞法なのか中止法なのか、又語意は如何。

6 「ともかくにもつかで」を諸注釈書は「中途半端などつつつか

ずの状態」と解くが、それを具体的に説明せよ。「なににもつかぬ身のありさまにて(源氏物語、鈴虫)」は、准太上天皇の処遇を受ける源氏が秋好中宮に「ほんとうの院というわけではなくって普通の臣下でもない身の上で」と述懐している詞である。参考せよ。

7 「世にふる」は、この世に生きている、暮している意であるが、「世」には俗人の世界の意もあることを手がかりにして、作者の言わんとするところを説明せよ。参考「世の中になほあましば(出家せずいたら)今は高き位にもなりなまし(宇津保物語・春日詣)」

8 この「人」は誰のことか。またこの三人称形式はこれより下の文ではどうなっているか。

9 「かたちとも人にも似ず」を口訳せよ。尊卑分脈には「本朝第一美人三人内也」と注する。これによって、この表現を、(A)謙辞である(B)自分の容貌の衰えに対する嘆きもふくむ、との両解がある。それぞれによつて作者のイメージがかわると思われる。説明せよ。

10 「ものの要にもあらである」は、なんの役にも立たぬ有様で暮している、の意だが、自嘲の口吻も感じられる。夫に対して、また道綱・父倫寧に対して、作者はどんな「要にあら」ぬことを歎いているのか。

11 「おもひつつ」の思う内容に相当する部分を本文中からぬき出し、その心境をわかりやすく説明せよ。

12 「古物語」を、例をあげて説明せよ。

13 「見れば」はどこへかかるのか。

14 「そらごと」の語意如何。また作者の「そらごと」に対する気持

も説明せよ。

15 「だにあり」は、下の「めづらしきさま」に関連して「だに(めづらしきさまに)あり」の意とされている。わかりやすく解釈せよ。

16 「人にもあらぬ」の「人」は、人のかずに入るような立派な人の意である。女性である作者が意識している「人」を具体的に説明せよ。

17 「身の上まで」の「まで」を文法的に説明せよ。この表現も、事実そうした身の上であったのを踏まえての言葉ではあっても謙辞である。作者はどんな身の上こそ書くに値すると考えているのか。

18 「日記す」は、月日の順に、月日を記しつつ事実を記録することである。「日記して」は、下に「おほかりける」とあるのを考えたと、解は、(A)これから日記として書くならば(B)いま日記として書いたが、のいずれか。

19 「だにあり」に呼応すると考えた場合、「めづらしき」の上に補うとわかりやすくなる副詞を考えよ。また「めづらし」は、前例がない、同様のものがほかにない、だからそんなものにぶつかる、と奇異な感じを受けるの意である。具体的に説明せよ。またこれは謙辞なのか、それとも、実は新しい文学創造の誇らしげな宣言なのか、を考えてみよ。

20 「天下の人の品たかきやと問はむためしにもせよかし」の「問はむ」の主語は如何。「ためしにもせよかし」と作者は誰に言っているのか。とすれば「天下の人」は具体的にどんな人ということになるのか。又「問はむ」の「む」の文法的説明如何。日記を「ためしにもせよ」と言える根拠も説明せよ。

21 「品たかきや」は難解とされているところだが、一応「品たかき人やいかがある」の意として解いてみよ。その場合「品たかき人」が具体的に誰を意識した表現かが問題だが、次の「父の旅立ち」を参照して、その中心が、(A)兼家(B)作者のいずれなのかを考えてみよ。また「いかがある」という時の関心の焦点となっているのはどんなことなのか。

22 「おぼゆるも」は上のどこを受けた表現か

23 「さてもありぬべきこと」を品詞分解し、口訳を工夫せよ。

24 「おぼつかなかりければ」の「けれ」、「おほかりける」の「ける」は、どんな意味を負わされているのか。

25 この序文は、内容を、自己紹介、現在の心境、述作の動機及びその効用性、叙述の不備を詫げる挨拶、の四つに分けることができる。本文でそれぞれどの部分にあたるかを考えよ。

○十二(町の小路の女 その一)

さて九月ばかりになりて、出でたるほどに、箱のあるを、手まさぐりにあけて見れば人のもとにやらむとしける文あり。あさましさに、見てけりとだに知られむとおもひて、書きつく。

うたがはしほかにわたせる文みれば

ここやとだえにならむとすらむ

などおもふほどに、むべなう、十月つごもりがたに、三夜しきりて、見えぬときあり。つれなうて、「しばしこころみるほどに」なだけしきあり。

1 「箱のあるを」の「箱」とは何か。

2 「手まさぐりに」は、手先でもてあそぶことだが、作者はどんな意図があって、わざわざこんな表現をしているのか。

○十三(町の小路の女 その二)

これより、夕さりつかた、「内裏の方ふたがりけり」とて出づるに、心えて、人をつけて見すれば「町の小路なるそこそこになむとまり給ひぬる」とて来たり。さればよと、いみじう心憂しと、思へども、いはむやうも知らであるほどに、二三日ばかりありて、あかつきがたに、門をたたくときあり。さなめりとおもふに、憂くて、あけさせねば、れいの家とおぼしきところにもものしたり。

つとめて、なほもあらじとおもひて、

嘆きつつひとり寝る夜のおくるまは

いかにひさしきものとかは知る

と、れいよりは、ひきつくりひ書きて、うつろひたる菊にさしたり。返りごと、「あくるまでもこころみむとしつれど、とみなる君使の来あひたりつればなむ。いとことわりなりつるは。

げにやげに冬の夜ならぬ真木の戸も

おそくあくるはわびしかりけり

さても、いとあやしかりつるほどに、ことなしびたり。しばしは、しのびたるさまに、「内裏に」などいひつづあるべきを。いとどしう心づきなく思ふことぞ、かぎりなきや。

1「これより」の「これ」は何を指しているのか。またこの文節はどこへかかるのか。

2「内裏の方ふたがりけり」の「方ふたがり」とはどんなことなのか。また、どこから「内裏の方」が「ふたがりけり」というのか。とすれば、兼家が言いたがっているところを直截的にいうとどういうことなのか。さらにまた、それをこんな違まわしな言い方にする兼家の気持も考えてみよ。

3「あさましさに」はどんな気持の表現なのか。

4「見てけりとだに」の「だに」の果している働きを具体的に説明せよ。

5「書きつく」は、どこになのか。

6「うたがはし……」の歌は、「うたがはし」の「はし」に「橋」をひびかせて一首を橋の縁で仕立てている。その三つの縁語はそれぞれ懸詞にもなっている。説明せよ。

7作者がこの歌を「書きつ」けたねらいは何か。またその効果はあったのだろうか。

8「むべなう」は、予想通り、はたして、の意であるが、どんな予想をしていたのか。またそれは何を根拠にしていたのか。

9「三夜しきりて」という「三夜」には特別の意味がある。だからこそ作者の受けたショックも大きかったのだが、その意味を説明せよ。

10「つれなうて」の「つれなし」は、(A)冷淡である (B)平気だ (C)よそよそしい (D)自然現象について) ありのままである などの意であるが、ここはそのいずれか。またここは、誰が、どんなことに対して「つれなくて」なのか、又作者の気持も、あわせて考えよ。

11「しばしこころみるほどに」の「こころみる」は、心を見る、つまり様子を見る意であるが、誰が、誰の、どんな様子を見るときのか。また「ほどに」のあとに適當な語を補って口訳せよ。

12「けしきあり」の意味如何。

13このできごとがどんな事情を背景にしているのかを考え、作者の受けた心の傷の深さを説明せよ。また、それに対して兼家が「つれなく」あった理由も考えてみよ。

3 「さればよ」とは、どこへかかるのか。

4 「いはむやうも知らで」は、具体的にいうと、誰が、誰に、何を、なのか。またそれはどうしてなんだろうか。

5 「あかつきがた」と「夜深し」と「あけぼの」の前後関係如何。

6 「さなめり」の「さ」の内容を説明せよ。

7 「憂くて」とはどんな感情の表現なのか、また作者はなぜ「憂し」と感じたのだろうか。

8 「れいの家」とは誰の家なのか。こんな表現を使う作者の気持ちも考えてみよ。

9 「なほもあらじ」の口訳を工夫せよ。またなぜそう思ったのか。

10 「嘆きつつ……」の歌にも懸詞がある。説明せよ。

11 この歌によると作者が戸をあけなかった意図はどう説明されているか。とすれば、当時の人々の作歌態度を考えあわせると、(A)戸をあけなかったからこの歌が作られた (B)この歌を贈るために戸をあけなかった のいずれか。

12 「ひきつくりて書きて」の「ひきつくりて」は、改つての意だが、それは作者のどんな気持を表現しようとしてのことなのか。また書体だけのことではないと思われるが、他にどんなものも考えられるか。

13 「うつろひたる菊にさし」た理由如何。

14 「あくるまでも」の口訳を工夫せよ。

15 「こころみむとしつれど」は「こころみむとせしかど」ではいけない理由如何。

16 「召使の来あひたりつれば」の「召使」は式部省で選抜して太政官に属し史生の下にある禁中の卑官である。当時兼家は右兵衛佐

で太政官には属していないから、これは帝か父右大臣師輔からのものであったのだろう。その「召使」がどこで誰と「来あひ」と言っているのか。また、だからどうだったと言いたいのだろうか。

17 宮中から兼家の邸への道順は作者の家の前を通るのだが、この兼家の言葉は、(A)事実だった (B)口実にすぎない のいずれの解き方が面白いのか、その解き方によって変る兼家、作者の人柄のイメージもあわせて説明せよ。

18 「いとことわりなりつるは」及び「げにやげに……」の歌の口訳を工夫せよ。またこれらの言葉は兼家のどんな気持の表現かを考えよ。

19 「あやしかりつるほどに」の「あやし」は理解できない、「ほど」は、程度、である。口訳せよ。また具体的に作者は誰の何を指して「あやしかり」と言っているのかを説明せよ。

20 「ことなしびたり」の「ことなしび」は、なにげないふうをする、知らぬふりをする、さりげないふうをする意であるが、具体的にどんな態度だったのかを説明せよ。またこの表現の下にある作者の気持は如何。

21 「内裏になどいひつつあるべきを」の「を」は間投助詞の名残りもあわせ持つ逆接助詞であるが、その下の表現されていない作者の嘆き(ないしはいきどおり)も含めて口訳せよ。

22 「いとどしう」は、いよいよますます激しい、甚しいの意であるが、前にある条件が存在する上に、またある条件が加わって「いとどしう心づきなうおもふ」のである。その条件を考えよ。

23 この段の終りの部分は、事件当時から相当な時間が経っているの

に、なぜこんなに激しい口調になったのだろうか。

(一)「蜻蛉日記」学習のまとめ

生徒の学習の過程での反応チェックで、もっとも多くの生徒が強い感動を覚えたとするのは、「⑤兼家の病氣」で、次いで「④母の死」「⑧初瀬詣」で。すべての生徒が、好悪の感情は別として、批判を集中したのは「③町の小路の女」でした。

このことは、まとめの課題として与えた「兼家、または作者に宛てた手紙」でも読みとることができます。この課題は冬休みに「就職希望の学級の二クラス」に課したもので、男子十六名、女子九十一名という特殊な編成ですが、この手紙によって、課題学習の成果のあらまはとらえられると思います。

(A)兼家に宛てたもの

男子 九

そのうち兼家に批判的なもの 六

好意的なもの 三

女子 二十

そのうち兼家に批判的なもの 十

好意的なもの 十

批判の焦点になっているのは「町の小路の女」の事件で、男女とも「自分勝手だ、調子がよすぎる、女の気持を無視している、女をおもちやにしている、不潔だ」等々と極めて手きびしく、特に男子から激しい非難の声の出ているのが注目されました。そのいくつかを紹介します。名前の下の算用数字は二期の定期考査二回の平均点です(学年平均51点、最高92点)

○大野幸子 39

私は女だから道綱の母の味方をします。あなたをあんなに愛してくれている人がいるのにどうしてあんな町小路の女のところへ行ったりなさるんですか。不潔です。

そんなことをする男の人が不思議でしたありません。あんなに思われていたら悴せなはずなのに。あなたの時代の男の人はみんなそうだったのかも知れませんが、そんなことは私は絶対に許せない。

また、町の小路の女の人もかわいそうです。あなたは自分さきよければいいと思っているみたいに思えます。男の人は勝手すぎます。私だったら道綱の母のようになんかできません。彼女もがまんできなかつたと思うけれど……。私だったらきっとあなたを殺しているか、それともあの女の人を殺しに行っていたかも知れません。でも道綱の母はあなたが帰ってくるのをじっと待っていた。

あれほどまでにあなたを愛している彼女をもっと大事にしてあげてください。

○辻薫(男子) 46

昔と今の考え方や慣習や生活の様子など全く異なるので、かつてなことは言えませんが今の私の考え方からしたら、教室での勉強や注釈書を読んだ範囲内では、あなたのあんまりな移り気というのが浮気心というのか、とにかく腹が立ってしかたがないのです。というの、少しずつ例をあげていくと、まず倫寧殿から「あなただけを頼りにしています。私の娘と末遠くまで幸せに」と言われて古今の歌なんか引き出して「永遠に変らない夫婦の契りをつけていきます」と安心させておきながら、しばらくすると作者のところにあきてしまい、町の小路の女の所へ入りびたるようになり、作者を嘆き

悲しませたかと思うと、その女の人にもあきてしまい、あぐくのはてに捨てて、おまけにあなたとのできた子供も死んでしまったではないですか。なんというむごいことをしたんです。その上思ひ出したように作者の所へ行き、喜ばせたりしたけれど、作者の母は作者があなたのことばかり思つて悩んでばかりいたので氣を使ひすぎたでしょう、病に倒れ、とうとう亡くなつてしまつたんです。そのせいで作者も病氣になり、死のうとまで思つたんですよ。それなのにあなたはその時だけは反省したような色をみせていたけれど、その場が過ぎるとしやあしやあととしていたではないか。そんなことでパチが当たつたんでしようが、あなたは病氣になると、こんどはいまにも死ぬような口ぶりで、作者を「愛している」とかなんとか言つて作者を心配させ、病氣が治つてしばらくは作者を喜ばせていたけれど、結局は作者を北の方に迎えてはやらなかつたではないか。その上、日が経つとまたまた氣がかわりあなたの伯父の実頼が亡くなるとその恋人であつた近江に近づいたり、もうこれ以上あなたのことを書くのもいやです。

こんな私でも始めのうちはあなたのことを作者に冷たくあしらわれてもあしらわれなくても「愛してます」とばかり愛する女性のためならどんなしうちを受けても平氣な様子をしていたそんな根性のある男の中の男みたいな所があつたので好きだつたんですよ。

作者から見たあなたの様子は、作者の冷たい様子もしかたがないと思われものだし、作者のそんな態度もあなたを愛しているからこそこのいじらしい抵抗じゃなかつたのかなと思うと、そんな作者の心情をなぜもっと深く考えてやらなかつたのかと、それも残念でありません。

○藤野悦子 38

はじめまして、兼家様。私、現代っ子です。まずはじめに一言。あまり乙女たちの心を悩ませないでください。本当にあなたは今でいうプレイボーイで、いやらしいわ。と言いたいところだけれども、私はあなたに強い興味をもつと同時にすばらしい人だと思つた。

なぜって、それは、どんなものにも美しさを見いだし、感動と興味を持ち、その上それらをみんな自分のものにしてるように、私には感じられるからです。あなたのことをなにかも知っているわけでもないし、そんな時代に住んだこともないし、男と女の問題などどんなものなのかを知りつくしてもいいから、そんなふうにするのかも知れませんが。

それにもう一つ、あなたがすばらしい人だと思つるのは、あなたが病をおしてまで愛することのできる人がいるということ、いや、そんなに深く愛せるということは本当にすばらしいことですし、そんなあなたをすばらしいと思つたのです。

けれどもお願いもあります。あなた以上にあなたを思っているたくさんの人たちのことを考えてあげてください。あなたの一つ一つの動きに心をくばつて、心配し続けている人たちのことを。

おわかりですか、真実の愛を持つ女心が。

ごめんなさい。ちょっとときつくいいすぎてしまつて。けれど、こんなことを言ったのはそれだけあなたに興味があるからです。

あなたは、ほんとにすばらしくて、幸せな人だと思つし、あなたに愛された人人も、幸せな人達だと、私にはそう感じられます。

○加藤利恵子 67

兼家さん、私は「蜻蛉日記」に出てくる人物の中で、好きな人に

手紙を書けと言われた時、すぐ、あなたに決めました。というのはあなたの人間味あふれる人柄に興味をもったからです。浮気っぽくて町の小路の女の所に通っているのを知られても平気な顔をしている。無神経なのか、図太いのか、そんな、夫失格、の面があると思うと、その反面、道綱の母が病気になった時には、自分が行ける限りは自分で見舞い、行けない時は手紙を持たせてやるほど愛情深く、また思いやりもある、そういう人柄にです。

しかし、あなたという人物を、とても好きになったのは、あなたの病気が治りかけて、道綱の母を呼んだところでです。彼女のために明りを縁につけておいてやるやさしさや、魚料理を一諸に食べようと待っているところなど。なかでも、彼女が帰る時に、彼女のことを思って、一諸に帰ろうと言われた時、私、人ごとなのに、とてもうれしかったんです。

でも、それを断った彼女も偉い。どんなにか「一諸に帰りましょう」と言いたかったでしょうに。

あなたが、彼女を見送ってもの寂しそうにしている姿は、母親と別れる幼い子供のように思われて、とても悲しかった。

あなたは、町の小路の女に一時的にしろ心を奪われたこともあったりしたけれども、本当に彼女を愛しているのだと思いました。こんなにも強く愛されている女性はとても幸福であるとうらやましいくらいです。どうかいつまでも彼女を大切にしてくださいね

○中筋みずす 81

あなたの作者に対する愛情の深さには、まったく感心させられませんでした。作者ははじめこそあなたの愛情に対して疑いを持っていました。しかし、次第にあなたの方に心が傾いていったことは確かです。

すし、あなたの気持ちも分かっていたことと思います。

それにもかかわらず、作者がそれを素直に表わさなかったのは、心の底に何か言うに言えない不安や悩みがあったためではないでしょうか。

たしかに作者にも反省してもらいたい点もあります。しかし、あなたにもう少し相手の身になって考えるところをほしめたいと思いました。

作者に対して、あんなにこまやかな愛情を示すあなたが、どうして作者の心の奥に潜んでいる不安や悩みを理解することができなかったのでしょうか。

人は自分を基準としてしか相手を理解することができないということも聞きます。なに不自由なく暮してきたあなたにとっては、作者の心の奥底まで理解することはむずかしかったかも知れません。まして男と女なんですから。

でも、あなたと作者との仲がうまくゆかなかった時の作者の態度がなぜそんな風になるのか、せめて考えてあげてほしかったと思いました。

(B) 作者に宛てたもの

男子 七

そのうち作者に批判的なもの 七

好意的なもの ○

女子 七十一

そのうち作者に批判的なもの 四十七

好意的なもの 二十四

男子がござって批判的なのは注意をひきますが、男女が共通して

あげているのは「もっと素直に、もっと素朴に、馬鹿になって兼家の愛を信じ、すがりついていくべきだ」というようなことで、八割程度が口にしていきます。好意的なものな場合には、べったり同情というのがありますが、作者の生き方を賞讃し、愛の本質を教えられたこと人生への助言を与えられたことを感謝する声が圧倒的なのが注目されました。

○中谷節子 66

あ、あなたがうらやましい。兼家にこれほど深く愛されて。でもあなたが書いた日記を読むと、イライラする。アタマにくる。こんな深く愛されているのに、たよりない信用できないだつて、もしあなたが今私のそばにいるなら、私はあなたをブツとばしてやりたくなる。全く、兼家がかわいそう。柿本契という先生は「私たちとても人に似ず」というところを、「謙遜一点ばりではなく実際に容貌の衰えを意識した嘆きがこもった筆つきと思う」とあなたにとっては大変都合のいいように解いていらっしやいます。（日本第一の美人、三人のうちの一と言われる人の謙遜の言葉だとしたらハナモチナラヌいやみですものネ）でも私は、読んでいくうちに、なんとなくあなたの方が大きらいになって、それも、そうではないような気がしました。本当はどうなんでしょうか。

でもあなたの気持で一ヶ所だけ、実によくわかるところがあります。それは、人間は愛すれば愛するほど、相手の心にある自分の存在が気になるところ。本当にそうですね。確かに、自分がきらいな人なら、自分をどう思っていようと別にかまわない、私ばかりきらいなのだから相手だつてきらいでもいいと思います、自分が好きな人なら、気になりますね。もし、きらわれていたら、と思う

とすごく悲しいですもの。でも私なら、そう思うから、相手に好かれようと努めます。でもあなたは、ブライドが高くて、そんなことをするのはいやなのでしょう。私の心の中のアなたは、そんな感じ。なんだか、すごく冷たい人のような、たとえば、頭のよい、いわゆる文学少女の見本のような人に思えました。

そんなあなたに忠告もなしですが、もし許されるなら、あなたはあなたにもっとばかにおなりなさいと言いますね。そうすればきつともっとも愛される人間になると思いますよ。

○谷口幸三 34

あなたはなぜ気乗りしなかった兼家からの求婚を承諾したんですか。親もあまり気が進まなかったのに——。父が陸奥へ行った時も当時では陸奥といえども一生の別れとなるかも知れない所です。だからあなたの気持もわかります。しかし、その時なぜ兼家を頼らなかつたんですか。このことは兼家も「自分を頼みにしてはいないからだ」と言つてあなたの不信をなじりましたね。もつともだと思いません。偶然兼家の恋文を見つけた時も、なぜ心がおのいたのですか。信じてなかつたからではないでしょうか。兼家の多情さも困りものですが、あなたも時短の存在は承知の上だつたはず。当時の風習ももちろん知つていたでしょう。だのになぜ兼家が町の小路の女の所へかよひだした時、兼家に対してつれない態度をとつたのですか。あなたの愛がうすいからではありませんか。兼家が町小路の女に冷淡となり、加えてその子は死んだと聞いた時「今ぞ胸はあきたる」とばかり喜びの声をあげましたね。これは一体どういふことですか。あなたは兼家の愛をどういふかたちで受けたいたのですか。あなたの立場が町の小路の女の方へ移つただけです。だか

らこの女の苦しみや悲しみはよく分かるはずですよ。それを大喜びすると、あなたはふざけた人ですね。でも、兼家の多情さも困ったものですけど——。

○新居義久 58

あなたの態度は気に入らん。いつもいいいじしている。言いたいことがあればはっきり言ったらいいんだ。その点兼家ははっきりしている、というより、あけっぴろげなんだ。あなたのほかにもかよい所をつくって、それがあなたに見つかっても平気な顔をしていてその上その女のための縫いものまでさせる。このような態度はあなたにとって非常に残酷であるかもしれない。しかしそれらは兼家の性格によるものだと思う。かよい所は多いほどよい、「おれは愛する人には何でもしてやる、だから相手の女もそれぐらいはやってくれるだろう」などと思う。このようにあっさりわりきって物事を考える。そして行動する。悪く言えば身勝手である。自分がこうだから相手もこうだろうと単純に考える。こんな所は私にもあります。そのためしばしば相手を傷つけることにもなります。あなたは兼家がこのような性格であるため、しばしばいやな思いも苦しみもしたことでしよう。

話をもともどそう。あなたは兼家を信じきっていない。愛するがゆえに簡単に安心できないのかもしれない。しかしあなたは賢い人だ。「世の中に多かる物語」なども読んでいる。兼家の性格を知り、あなたの気持を兼家に知ってもらうための努力をすれば、あなたがたの関係はもっとうまくいったはずだ。しかしあなたはそれをやらなかった。やはり私は気に入らない。

○岡 治子 72

あなたはほんとうに気の毒な方ですね。生れてくるのが早すぎたのですよ。今の世に生れていたら、あなたももっと幸福になれたでしょうに。だいたいあなたは一夫多妻制の世の中に適應するように生れついていなかったのですよ。強すぎる自我、内攻的な性格が終局的にはあなたを不幸にしたのです。楽天的で単純、そんな女性の方が、あなたの時代では、楽しい人生を送ることができたに違ひありません。でもあなたの時代の女性の中には、あなたと同じような、あるいはあなた以上の煩悶や苦しみをなめさせられた人達、また夫の足が途絶えた後悲惨な生涯を送った多くの女性がいました。そんな人々に比べる時あなたは道綱という立派な子供があり、北の方として迎えとられることこそなかったとはいえ、それに準ずる待遇も受けたのですからしあわせ者だといえないでしょうか。

そのあなたの態度の中で我慢のならなかったことを一つだけあげておきます。それは、例の葵祭の日のことです。あなたがライバルの時姫の歌をあげつらって馬鹿にした、その気持はよくわかります。人間の気持として当然なことだと思えます。でもそれを兼家にまで披露することはなかった。私はあなたをいやな人だと思いました。もっと兼家に愛されたいという気持の表われだとしても、あるいはすぐれた歌の才能を持ちながら公の華やかな場で活躍することのできなかったうさばらしだったとしても、あなたに同情することなんかできませんでした。卑しい、さもしい。そんな女、だいきらいます。

○中津和子 62

あなたの日記を読んで私は腹立たしく思いました。あなたと私のおかれています環境はずいぶん違ってきます。でも私も十八才になり

ました。昔だったらもうお嫁にいつている年頃です。だから愛のことについて考えたことを言ってもおかしくないと思います。

あなたの時代は一夫多妻の許された時ですから、あなたの不安な気持はよくわかります。北の方として迎えられない悲しみもわかります。でも、あなたの時代はほとんどの女性がそうだったのです。

時姫だってそうではありませんか、兼家があなたの所へ来てるときは、ひとりばちです。あなたもそれは知っていると思います。でも、自分のことばかり気になってしまうのです。人の心の中をくみとろうとする気持がないのです。それが私の一番きらいな所です。だから、兼家のやさしさも理解できないのです。そして、やさしくされても、されても、もっとそれ以上のものを望むのです。

不安な気持がそうさせるのかもしれない。でも、人の立場に立って物事を考え、心の中をくみとろうとすれば、あなたほど要求が高くないと思います。私の時代は一夫一婦です。でも不安な気持はいつの時代にも変らないと思います。えらそうなことを言っておきたくないと思います。

○村岡由岐子

64

あなたはとても意地っぱりな人なんです。せっかく訪ねてきた兼家を家に入れなかったり、素直にうれしい気持を表わさないと、わざと面倒臭そうに言ったり。兼家と結婚してからも彼に頼らないでいつまでもお父さんに頼っていましたね。兼家はあなたを一番愛してくれているのに、その愛が信用できないことばかり言って心を許さなかったではありませんか。確かに兼家は、町の小路の女、の所に通って行ったりしました。けれどもそんなことはあなた

の時代では珍らしいことではなかった。それを許すことのできなかったあなたの潔癖な性格が魅力であると同時に兼家との間の障害にもなっていたのではありませんか。兼家は浮気ではあるけれども、いつもあなたのことを思っていてくれたのに、あなたはそんな愛情には満足できなかったのです。もしあなたがそんなにも潔癖でなかったらもっと幸福になれたかもしれない。兼家は、あなたのお父さんが旅立った時にもお母さんが亡くなった時にも優しい心遣いをしてくれたのに、その優しさに対する感謝の気持を、彼に対する愛情をどうして素直に言えなかったのですか。けれども兼家のことだから家外あなたの気持をわかっていったのかもしれない。

それにしても、私は兼家という人を、あなたの日記を通して知ったのです。こんなに優しい兼家を、日記には表わせるのに、口で直接表現できないなんて。あなたはとても意地っぱりな人なんです。ね。

○大石逸子、45

兼家のもっとも好ましく思っている人は誰でしょう。もちろんあなたです。それはあなたが百も承知のはずではありませんか。非常識を承知の上であえてあなたを屋敷に招いたのも、初瀬詣での帰りにわざわざ宇治まで迎えにきてくれたのも、みんな兼家があなたをどんなに思っているかを表わすものです。そしてそれは北の方としては迎えられないあなたへのせめてものつぐないのためだったのかもしれない。それなのに兼家が町の小路の女のところへ行くことを、なぜあなたにもがめ、悩んだのですか。あなたが兼家のことを強く慕っていればいるほど、自分一人だけのものであってほしいと願うのは当然だと思います。でも兼家は、たとえ一時ほかのとこ

ろへ通っていても、結局はあなたのところへもどってくるんです。生きている男を一生自分のもとへひきとめておくことがどんなにむずかしく、そう願うことがばかげたことであるか、賢明なあなたなら、わかっていられると思います。

日記から察するところ、兼家がもっとも多く通っているところは、時姫のところでもなく、もちろん他の女のところでもなく、あなた自身のところなのです。ここへくればとても楽しく心が落ちつくと兼家に思われるように、もっとゆったりとしていて下さい。

最後に一言。あなたの日記のねらいは序文に書いてはありますが、ほんとうにそれだけなんでしょうか。読みながら、さんざんおのろけを聞かされているような気持ちになったのは私一人ではないと思いますけど――。

○藪中留美 67

私はあなたの日記を読んで、とても平安時代に生きた女性とは思えない親近感を感じました。

ある日兼家様が町の小路なる人に出す手紙を見つけられたあなた。この時でもとりみださず、「見てけりとだに知られむと思ひて」歌だけを記しているのにも、あなたの理性的な冷静さがうかがわれます。

それでいてやはり兼家様の行く先をつきとめずにはいられない女性。そんなところに強い親近感をおぼえます。

また睦方に訪れた兼家様を、門をとぎしたままとうとう家の中へは入れようとはなさいませんでした。あなたの時代の男性は、他の女の人のところへ通うのはあたりまえ。それを頑として受けつけなかったあなた。何だか現代に生きている女性のように思われまし

た。あなたの女性としてのプライドの高さがうかがわれ、胸がスツとする思いがしました。それというのもあなたが兼家様をひきつけてはなさない美貌・歌の才能といった魅力をもっていたからだと思います。

読んでいて、冷たい方だなと感じることもあり、もう少し自分の気持ちに素直になられたらよかったように思うこともありましたが、なによりもすばらしく、うらやましく思いましたのは、兼家様をこんなにも暖かく思いやりのある人に感じさせるようにお書きになられた、あなたの兼家様に対するあたたかい愛の心です。

○土橋八重子 53

あなたの書き残してくださった蜻蛉日記を一部だけ読んだ者です。進んでこの日記にとりくんで勉強したではありませんが、みんなと一諸に勉強しながらだんだん興味を持つようになった私です。失礼ですが、率直に感じたことを述べさせていただきます。

始めのうち私は、この人は何と自尊心の強い人なんでしょう。そして虚栄心・嫉妬心の激しい人//と思っていたんです。でも、そのうちに、もっと大切なことを見つけることができました。

二人の愛が激しくなるほど、女性はこの愛がもっと深くそして確かなものであり、永遠にそれを独占したいと願ひ、男性はむしろそんなことには無頓着で無責任、新しい愛へすぐ転換することもできるし複数の愛をもつことさえできる。そこからあなたの苦しみも不安も生まれてくるのではないかと思ったのです。

蜻蛉日記を通じて一番つよく感じたのは、いつの時代でも愛の本質は交らないものだということでした。これから大人としての第一歩を踏み出そうとする私達に大切なことを教えて下さったあなたに

心から感謝しています。

○仲田邦子 65

私はあなたの日記を期待をもって、そして興味深く読みました。そして女性の生き方について考えさせられました。

一夫多妻制が認められていた時代において町の小路の女のところへ通うようになった兼家に対してあなたが激しい嫉妬をするのをみつけると、私達現代の女性と同じ感情を、平安の女性ももっていたことがわかって、何かほっとしました。女性が自分の感情を率直に表わすことのできなかつた時代に、自分の心を素直に相手にぶつつけたあなたは、たいへん勇気のある方だと思いました。

あなたの時代の女性達が男性だけをたよりにして生きていたのと同様に、千数百年たった現代の女性もまた男性だけをたよりに生きている人が大部分です。所謂「マイホーム族」などに代表される、小市民的なマッチ箱の生活にあこがれている女性達がたくさんいます。そこには、もし夫が死んだら明日からの生活にもこまるという状態が待っているのです。このような女性の生活態度はあなたの時代の女性と変わったところがないように思います。

女性はなぜこんなにも同じ愚かさを繰り返してきたのでしょうか。これではいつまでたっても女性の位置は変わりません。男性に隷属して、その横暴をじっと耐えしのんでいる風景から、一日も早く脱出するために、あなたの勇氣とすぐれた理性をお手本に、私もこれから一生懸命にいろいろなことを学んでいきたいと思っています。

○おわりに

高等学校の国語教育が、ややもすれば国語受験対策指導のみに追われ、そんな受験屋教師だけがのさばって現場を暗く不愉快なもの

にしているという場面にお目にかかることもしばしばです。生徒達がそれぞれの本意を遂げてくれるように、我々が手をかしてやるのは当然のことながら、それが教師のつとめのすべてだとは思いたくないのです。むしろ、本当の国語の力をつけてやることでよかったらそれだけで大学にも合格できるんだと思いたいのです、でもそれは難しいことです。

授業はどこまでも本来の国語教育でありたい。でも時間が足りなすぎる。だから補講や補習もする。課題もどっさり与える。覚えてもらわなければならないことは、泣きながらでも覚えさせる。しかしそのシゴキがどんなときにも教師の一人相撲にならないような、生徒と一語に一歩ずつ歩いてゆけるような、そんな方法を探し続けてきました。そして今それを課題学習に求めているのです。

この「蜻蛉日記」の場合は二学期直前にノートを紛失して柿本獎氏の全注釈をそのまま拝借しましたが、少くとも四・五種の注釈書をにらみあわせてノートを作り、その上で課題を作成するという作業は決して楽なものではありません。生徒を迎え入れて送り出すまでの三年間のもう一つの積み重ねの仕事、火曜テストの問題作成と採点に並行するのですから、時にやつつけ仕事になったり、投げ出してしまいたくなったりもしますが生徒達が歯をくいしばってついてきてくれるからこそその苦しさもつらさも忘れてしまいます。生徒達は、こちらの意図通りに、予習のポイントがつかめる、よみを深められる、考えるきっかけが与えられる、(なかには、考查の準備が楽にできるなんて声もあります)等々の理由をあげて、課題学習を喜んでくれています。それだけに課題はできるだけ整理をして、付録しました「源氏物語」の課題例のような形で与えてやりた

いと思ひます。といつても一挙にしあげるなんてことは不可能です
ので一年一年の積み上げを大切にしてくつもりです。

勿論、どんなに苦勞して課題を与えても、英語や数学に手をや
いている生徒達が充分な学習をしてきてくれないという不満はありま
す。でもそれを乗りこえてゆく道は結局教師の熱意しかないとい
うこともようやく悟るようになりました。激しく燃える教師の心が、
一人一人の生徒の心をゆすぶることができるようになれば、自然そ
れぞれの生徒はそれぞれの能力一杯の努力はしてきてくれるよう
なる、そう思えるようになってきたのです。

率直な御批判を仰いで、またさらに一步でも前進できるように、
御鞭達を賜りたいと存じます。

附記 この実践報告は昭和四十三年八月十一日の広島大学教育学
部国語教育学会に発表させていただいたものです。

○付録

古典学習における課題例

桐壺(尚学図書「新選古文」)

△冒頭から「その恨みましてやらむ方なし」まで▽

(一)自発学習のための課題例

(A)語意を正確に把握させるための課題例

①「いづれの御時」の「いづれ」はWhichに相当しWhenの意
味はないといわれている。とすればここは(イ)どの御代、何天
皇の御治世 (ロ)いつの御代 のいづれの意か。

②副詞の「いと」は、下に形容詞・形容動詞・状態を表わす動
詞を伴って「たいそう・非常に」、名詞・形容動詞・副詞を
伴って「まったく・ほんとに」などの訳をあてるが、ここは

下に打消の「ぬ」を伴っている。どう訳すのか

③「やむごとなし」は「はなはだ尊い・高貴である」の意であ
るが、ほかに「捨てておかない・のっぴきならない、やむ
をえない」等の意がある。語源を考えてみよう。

④「思ひあがりたまへる」の「思ひあがり」は、口語の「思ひ
あがり」とどう違うか、説明せよ。

⑤「めざまし」は目がさめるほどの意から、よきにつけあしき
につけ、驚嘆の気持を表わす語であるが、悪い意味の場合
「あきれたさまである・心外だ・気にくわない」、よい意味
(稀に)の場合「すばらしい・立派だ」などの訳をあてる。
本文及び次の例文はそのいずれか。

(イ)あなづらはしげにもてなすはめざましうて(権本)
(ロ)いとよしよしうけだかきさましてめざましうもありける
かなと見捨てがたく(明石)

(B)文法に留意して正確に文意を把握させるための課題例

(a)待遇法に関する課題例

①「あまたさぶらひたまひける」の「さぶらひ」「たまひ」は
それぞれ誰に対する敬意の表現か。

②「時めきたまふ」の下に「人」を補う説に対して、「ありけ
り」に敬意が添っていないから主語は「人」ではありえず
「事」とすべしとする説がある。主語にたつ「人」の身分に
対してはどの程度の敬意を添えるのが普通なのかを調べてみ
よ。

③「まして安からず」というのは誰が誰を意識して「まして」
なのか。またその場合待遇法上問題はないか。源氏物語では

述語が形容詞の場合の敬語表現はどうなっているか調べてみよう。

(b) 文章法に関する課題例

① 「きはにはあらぬが」の「が」について、「が」は連体格助詞〔梅が枝〕から主格助詞〔梅が咲ける枝↓梅が〔咲ける枝〕〕が発生したといわれている。従って主格助詞「が」は中古文ではいつも体言を修飾することばの中の主語にしか用いられない（梅が咲かむ時）。とすれば、上の「ぬ」との間に補うべき体言及び下の「時めき給ふ」の下に補うべき体言は何か。そのさいのこの「が」の口訳も示せ。

② 「あいなく、目をそばめつつ」には「目をそばめつつある結果があいなし」として解くほかに次のような解がある。二つの文節関係のおさえかたの違いを説明せよ。

(イ) 不快なこととして目をそむける

(ロ) わけもなく目をそらす

③ 「まばゆき人の御おぼえ」について、「まばゆき」はどこにかかるとか。また「人」は誰のことか。この「人」と同類の語をあげよ。また「御おぼえ」を「御寵愛」と解く説があるが、どこからその意が生じるのか、語源から説明せよ。

(c) 口語訳を試みさせる課題例

① 「人の心をのみ動かし恨みを負ふ積りにやありけむ」を傍線部に留意して口訳せよ。

② 「もの心細げに里がちなるを」は連用修飾語があとにくる述語の結果をあらわす例八世の中をかく心細うて過しはつとも、なかなか人笑へに、かろがろしき心つかふは（総角）

（軽々しい考えを抱いてかえって人に笑われるようなことをするの意）Vであるといわれる。くだいて口訳せよ。また「を」は目的を示す格助詞だから「……のを」と訳してもよいが、下に係助詞の添った「をば」のときにも使える口訳を工夫せよ。

③ 「あかずあはれなるものにおぼほして」について次の四通りの訳が行われているが、それぞれ「飽かず」「あはれなる」「ものに」「おぼほして」の各文節間の関係及び語意のとり方がちがいを説明せよ。

(イ) あきることを覚えなほどの、そして可愛い者とお思ひになつて

(ロ) 不満に、またいとお思ひ者にお思ひになつて

(ハ) あわれなる者におもうことがこれで十分というまでにゆかないほど

(ニ) たまらなくいとお思ひものにお思ひになつて

(c) 中古文学（源氏物語）に関する常識をたしかめる課題例

① 源氏物語以前の物語の冒頭はどんな形ではじまっていたかを調べてみよう。

② 「女御」は中宮につぐ天皇の夫人である者の官名で平安中期では内親王・女王及び親王・摂関・大臣・上達部などの娘がなるのが普通で、「更衣」は元来天皇が御衣を更える便殿に侍してその御更衣を司る者の称であるが、女御同様天皇の夫人となる者もあり、大納言以下殿上人の家などの娘がなるのが普通とされている。この物語のなかではどうか、口訳された源氏物語を、通読して調べてみよう。

③「上達部」と「上人」との違いを説明せよ。

④「唐土に」おける「かかることの起り」の具体例として殷の紂王の妃「妲己」、周の幽王の妃「褒姒」があげられるが、どんな人だったのか調べてみよ。

⑤「揚貴妃のためし」を「長恨歌」によってまとめてみよ。

〔C〕教室学習のための課題例

(A) 読みを深めるための課題例
①「えはばからせたまはず」からうかがえる帝の心境を説明せよ。

②ことさらに「母北の方」とある理由、及び「なむ」の果している役割を説明せよ。

③「さしあたりて」にこめられている作者の人生観を説明せよ。

④「さきの世にも御契りや深かりけむ」という表現をささえているのはどんな思想か。

⑤「わりなく」は、あるまじきことを強いて思ったりしたりする場合にいう語であるが、この語によって推察される帝の心情を説明せよ。

⑥「御いさめ」を「御苦情」とするのと「御諫言」とするのとで、「この御方」の女性像が変わるが、それぞれの場合の帝の心情もあわせて考えると、いずれのとり方のほうが面白いのか。

⑦「御局は桐壺なり」という短文の果している効果を説明せよ。

(B) まとめための課題例

①桐壺帝の桐壺更衣に対する愛はどう描かれているか。

②その愛に対して帝の周囲の人々の示した反応の描写をまとめよ。

③どんな意図からこのような愛が設定されているのか。

④この冒頭部が以下の物語に対して負わされている意味を調べてみよ。

附記 この「古典学習における課題例」は昭和四十二年八月十二

日の広島大学教育学部国語教育学会における山本義美氏の研究発表の資料として添付させていただいたものです。

(兵庫西宮東高等学校教諭)